

令和8年度技術士第二次試験問題〔環境部門〕

19－3 自然環境保全【選択科目Ⅱ】

Ⅱ 次の2問題（Ⅱ－1，Ⅱ－2）について解答せよ。（問題ごとに答案用紙を替えること。）

Ⅱ－1 次の4設問（Ⅱ－1－1～Ⅱ－1－4）のうち1設問を選び解答せよ。（緑色の答案用紙に解答設問番号を明記し，答案用紙1枚にまとめよ。）

Ⅱ－1－1 令和6（2024）年9月，奄美大島におけるフィリマングースの根絶が環境省により宣言された。根絶に向けて実施されてきた防除対策の概要，根絶による効果（波及効果を含む）及び今後の課題について述べよ。

Ⅱ－1－2 エコツーリズム推進法に基づき，全国各地でエコツーリズムの取組が展開されている。地域においてエコツーリズムを進めるうえでの重要な視点を3つ挙げ，内容を具体的に説明せよ。また，同法の規定により地域が実施できる主な取組を2つ述べよ。

Ⅱ－1－3 生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）について，その制度の概要を述べたうえで，認定地域が国立公園等自然公園と重複する場合が多いことの理由と，重複することで生じる効果を述べよ。

Ⅱ－1－4 生物多様性及び生態系サービスの状況や変化及びその要因等について最新の科学的知見等を踏まえた「生物多様性及び生態系サービスの総合評価（JBO:Japan Biodiversity Outlook）」がまとめられている。4つに分類される生態系サービスとそれぞれの内容を説明したうえで，JBOがまとめられた経緯と現状について述べよ。

Ⅱ－２ 次の２設問（Ⅱ－２－１，Ⅱ－２－２）のうち１設問を選び解答せよ。（青色の答案用紙に解答設問番号を明記し，答案用紙２枚を用いてまとめよ。）

Ⅱ－２－１ かつて屋根材等に用いる茅（かや）を採取する場（茅場）であったある地域のススキ草原は，現在では，観光スポットとしての草原景観を維持するため，地域住民により火入れや刈取りなどの管理が行われている。また，管理が続けられてきたことにより，この草原は，希少種を含む草原性の野生生物の生息・生育地にもなっている。しかしながら，近年，管理に関わってきた地域住民の高齢化に伴い，これまでのような作業を十分に行うことができなくなったため，草原の一部では森林化が進んでいる。このため，草原の景観や特有の生態系を将来にわたり維持していくための保全再生計画を策定することとなった。この業務を担当責任者として進めるに当たり，下記の（１）～（３）の問いに答えよ。

- （１）計画策定に向けての調査，検討すべき事項とその内容について説明せよ。
- （２）業務を進めるために必要な手順を示し，留意すべき点，工夫を要する点を述べよ。
- （３）業務を効率的，効果的に進めるための関係者との調整方策について述べよ。

Ⅱ－２－２ 国立公園満喫プロジェクトを推進する取組の一環として，ある国立公園で「インタープリテーション計画」を策定することになった。この業務を担当責任者として進めるに当たり，下記の（１）～（３）の問いに答えよ。なお，インタープリテーション計画はインタープリテーション全体計画とも呼ばれる。

- （１）計画策定に向けての調査，検討すべき事項とその内容について説明せよ。
- （２）業務を進めるために必要な手順を示し，留意すべき点，工夫を要する点を述べよ。
- （３）業務を効率的，効果的に進めるための関係者との調整方策について述べよ。

令和8年度技術士第二次試験問題〔環境部門〕

19-3 自然環境保全【選択科目Ⅲ】

Ⅲ 次の2問題（Ⅲ-1、Ⅲ-2）のうち1問題を選び解答せよ。（赤色の答案用紙に解答問題番号を明記し、答案用紙3枚を用いてまとめよ。）

Ⅲ-1 2050年ネット・ゼロの実現等に向け、太陽光発電施設の導入と環境保全との両立が課題となっている。このような状況のもと、以下の問いに答えよ。

- (1) ある地域への太陽光発電施設の導入に当たり、自然環境保全分野の技術者としての立場で多面的な観点から3つの技術課題を抽出し、その内容を観点とともに示せ。ただし、太陽光発電施設は、環境影響評価法及び環境影響評価条例の対象とならない事業用のもので、建築物の屋根、壁面又は屋上に設置するものを除くものとする。
- (2) 前問(1)で抽出した技術課題の中で、最も重要と考える技術課題をその理由とともに記し、その技術課題に対する複数の解決策を、専門技術用語を交えて具体的に示せ。
- (3) 前問(2)で示したすべての解決策を実行しても新たに生じうる将来的な懸念事項とそれへの対応策について、専門技術を踏まえた考えを示せ。

Ⅲ-2 ICT（情報通信技術）の発展により、自然環境分野においても様々な側面から事業や業務への利活用が進んでいる。例えば、センサーカメラやドローンを活用した野生動植物の生息・生育状況調査、遠隔監視・操作システムや捕獲通知システムを活用した鳥獣被害対策等において、調査精度や作業効率の向上、労力の軽減等が図られている。その一方で、ICTの利活用に関しては様々な課題も顕在化してきている。このような状況を踏まえ、自然環境保全分野の技術者として以下の問いに答えよ。ただし、AIなどの課題解決の支援ツールそのものの解答は求めないこととする。

- (1) 対象とするICT技術とその活用場面を示したうえで、多面的な観点から3つの技術課題を抽出し、その内容を観点とともに示せ。
- (2) 前問(1)で抽出した技術課題の中で、最も重要と考える技術課題をその理由とともに記し、その技術課題に対する複数の解決策を、専門技術用語を交えて具体的に示せ。
- (3) 前問(2)で示したすべての解決策を実行しても新たに生じうる将来的な懸念事項とそれへの対応策について、専門技術を踏まえた考えを示せ。